

小山田エリアにおける 拠点施設整備の 進捗状況について

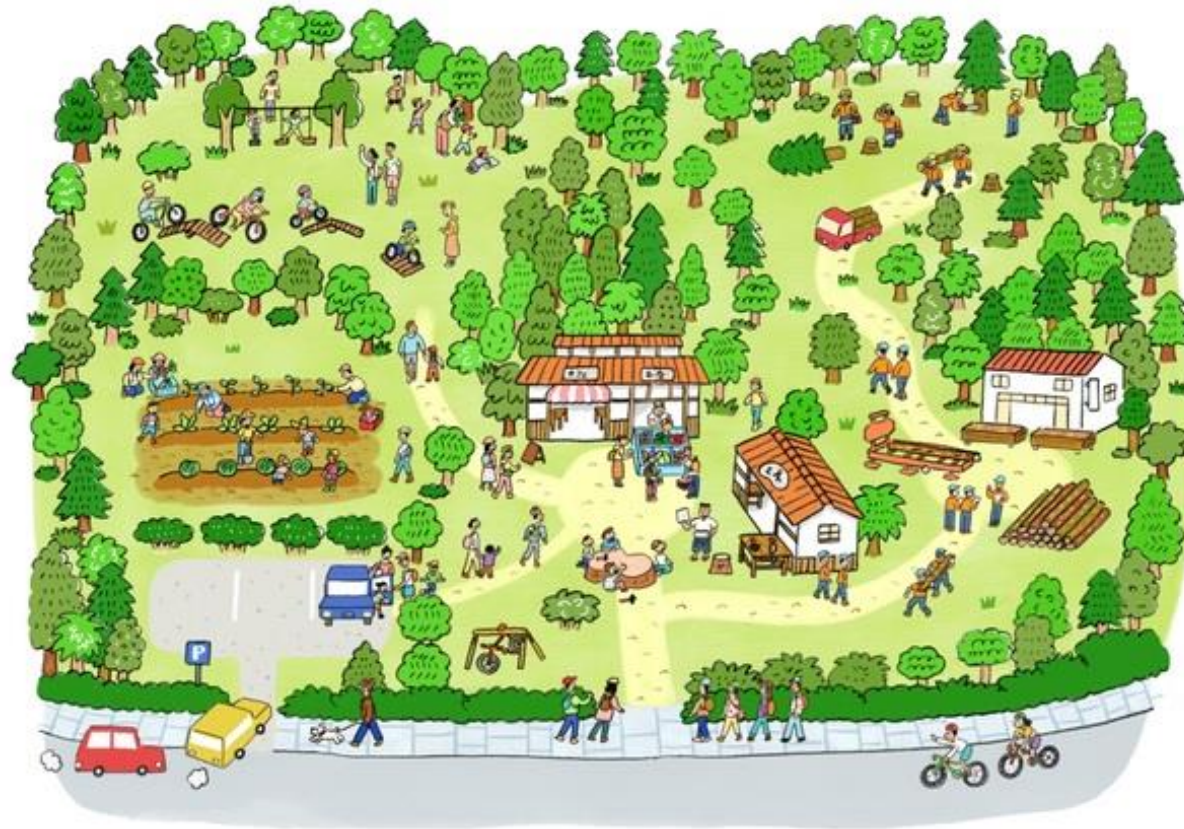
2025年度 町田市里山環境活用保全計画推進委員会

2026年2月17日(火)

報告事項

拠点施設検討に係る
里山資源量調査について

1. 拠点施設について



里山に関わる人を増やし、里山環境の再生と里山資源の活用を持
続的に行う、「新しい里山づくり」を推進する施設

1. 基本構想（2024年度策定）について（機能別の方針）

方針1 「新しい里山づくり」を持続的に行うため里山に関わる人を増やす
里山を活用したアクティビティを通じて、里山に関わる人を増やすとともに、人づくりや情報発信を行う。
関連する取組（案）：里山の理解促進（「新しい里山づくり」の周知） 里山を活用したアクティビティ（例）：アスレチック、マウンテンバイク、ロードバイク、トレイルランニング、里山環境学習や農業体験などの体験学習 など
方針2 木材や竹材を資源として活用する
山林をはじめとする里山環境の再生に取り組むとともに、伐採した木材や竹材を資源として活用するために必要な製材加工設備、工房（作業場）を整備し、子どもから大人まで里山資源の循環を学ぶ機会を創出する。
関連する取組（案）：山林の整備（人材の育成）、体験学習（木工体験・薪炭作り体験）、山林の役割や里山・木材を学ぶ機会の提供 など
方針3 地場産品を用いた加工品の開発や販売を行う
里山ならではの加工品の開発と販売を行う。
関連する取組（案）：地場産品の販売、地域農産物等を活かした加工品の開発と販売 など
方針4 地域住民をはじめ、施設を訪れる人の憩いの場となる
地域の人や来訪者、里山に関わる人が気軽に立ち寄ることができる場となり、かつ、地域の生活利便の向上につながる場とする。
関連する取組（案）：地域農産物を活かした飲食（カフェ）の提供 など

1. 基本構想（2024年度策定）について （実現に向けた課題）

1 事業採算性

（1）平日の施設利用の促進

（2）事業者・地域・行政の連携

2 民間活力導入にむけた課題の整理

○参画する事業者が持続可能な運営を行うことができるしくみづくり

○整備場所、事業規模の提示

○持続可能な運営につながる民間活力の導入手法や事業方式の検討

○地域の意向とミスマッチのない連携・協働による「新しい里山づくり」の推進

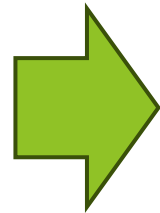
3 その他

○都市計画上の制限への適合・関連する法令の位置づけの整理など詳細な検討

サウンディング調査の結果（2024年度） ～持続可能な施設の運営～

調査結果

- ① 事業者だけで拠点施設の運営を担うことは難しい
- ② 行政の本気度や地域の機運が重要



今後の取組

- ① 事業者・地域・行政が連携した施設運営の仕組みづくり
- ② 事業者と連携したイベントの実施
- ③ 里山資源（木材や竹材）の活用促進と取組の周知（方針2 関連）

サウンディング調査の結果（2024年度） ～事業採算性の確保～

調査結果

- ① 集客の見込みが分からず、事業採算の見込みが立てづらい
- ② 小山田エリア内の資源量が分からず、事業採算の見込みが立てられない



今後の取組

- ① 事業者と連携したイベントの実施（方針1・3・4関連）
- ② 里山の資源に関する調査の実施（方針2関連）

資源量調査について（概要）

- (1) 調査期間：2025年10月～11月
- (2) 調査対象地：東京都町田市上小山田町及び下小山田町内

(3) 現地調査内容：
樹種、周囲長、樹高、状態

- (4) 現地調査方法：
- ・1区画設定：5m×5m
 - ・周囲長：胸高調査
 - ・樹高：測桿測定

- (5) 分析：
- ・立木幹材積※1等の分析
 - ・調査・分析結果のとりまとめ、
現況所見作成 ※2



※1 国立研究開発法人森林総合研究所「幹材積計算プログラム」<https://www.ffpri.affrc.go.jp/database/stemvolume/index.html>

※2 環境省「1/25,000 植生図 「武蔵府中（むさしふちゅう）」」<http://gis.biodic.go.jp/webgis/files/vg67/pdf/533933.pdf>
環境省「現存植生図2024 関東ブロック」https://geoportal.env.go.jp/datasets/490a48eaae6d464f8feacc50ad5bf6e5_0/about

資源量調査について（四季彩の森）



全体

- 維持管理され、二次林として更新が行われている。

または更新が行われた痕跡がある森林。

環境

- 樹木に覆われていない区画が多く、日当たりが良い。

- 山頂であり、平地となっている。

樹木状態

- 中低木～高木があり、健全な落葉広葉樹が確認できる。

- 一部に枯死・枯損木（腐朽、ナラ枯れ等）が確認できる。

- 幼木が複数種確認できる。

- 周囲長が70cmを超える大径木が複数確認できる。材積は1m³未満がほとんどである。

植生

- 木本類

スギ、クヌギ、コナラ、ウラジロガシ、マルバウツギ、ヤマツツジ、ヒサカキ等

- 草本・ササ・竹類

アズマネザサ

資源量調査について（五感の森）



全体

- 極相遷移が進み、常緑広葉樹を主に構成された照葉樹林になっている。
- 森林内の維持管理がほとんど行われていない状態。



環境

- 広範囲で樹冠が重なる。日当たりが悪い。
- 急斜面の地形。草本類の被覆が少なく、土が露出している。



樹木状態

- 常緑の高木が多い。
- 幼木の個体数が少ない。
- 周囲長が70 cmを超える大径木が複数確認できる。材積は1 m³未満がほとんどである。



植生

- 木本類
コナラ、エノキ、ウラジロガシ、ホオノキ、ヤマザクラ等
- 草本・ササ・竹類
アズマネザサ、カラスウリ、シダ類

資源量調査について（おこしの森）



全体

- 管理が行われている痕跡が確認できる落葉広葉樹林（二次林）で、常緑広葉樹の優占度が高く遷移が進んでいる。

環境

- ギャップが生じる程度の日照は確保されている。
- 小学校の隣接地で、山頂であり平地となっている。

樹木状態

- 高木が多い。
- 一部に枯損木（腐朽、ナラ枯れ等）が確認できる。
- 幼木が複数種確認できる。
- 周囲長が70cmを超える大径木は存在するが、ほとんどが周囲長20～40cm程度のヒサカキである。材積は1m³未満がほとんどである。

草本類等

- 木本類
クヌギ、コナラ、ウラジロガシ、エゴノキ、ヒサカキ、ナワシログミ、サンショウ等
- 草本・ササ・竹類
モウソウチク、アズマネザサ、オニドコロ等

事業者ヒアリングの結果（2025年度）

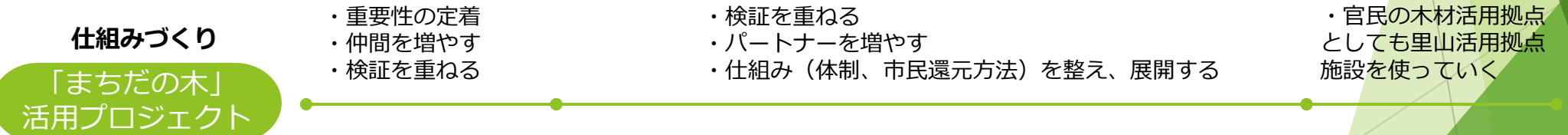
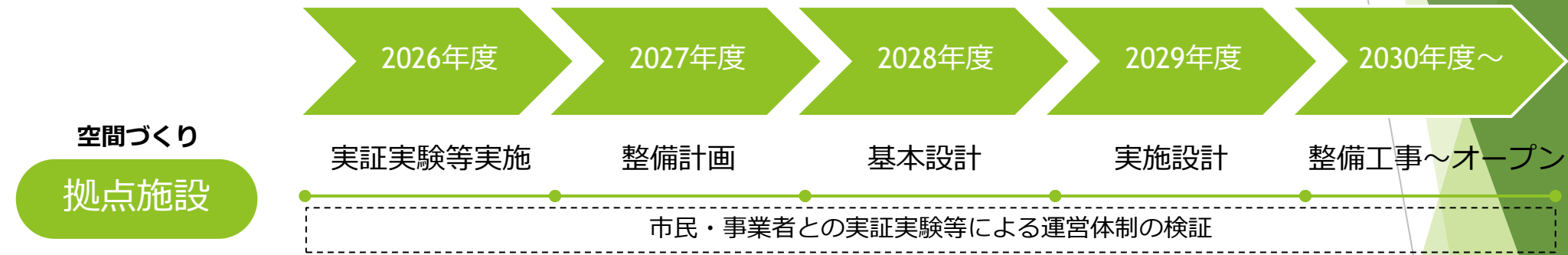
～木材活用の可能性～

- ▶ クヌギは軽量で暴れやすい材なので、家具の脚部等には向かない。
- ▶ 木があっても搬出ができないといけない。搬出可能な細かさ切ってしまうとそのサイズの中でしか使い道を考えられない。
- ▶ 例えばクヌギは針葉樹に比べて重量があるので、人力の搬出作業は事故のリスクが上がって危険。
- ▶ 全体的に樹種や本数に偏りがあり、経済林として安定供給が難しそうな印象。
- ▶ 薪炭林としての可能性はあるのでは。
- ▶ 広葉樹は幹が曲がっていることが多く、伐倒作業が危険である。
- ▶ 広葉樹は材積が1m³合っても曲がりがあるので材として扱いにくい。

事業者ヒアリングの結果（2025年度） ～里山資源活用の可能性～

- ▶ 森林資源の活用には、企業連携が必要となるが、「一緒にやりましょう」という姿勢が重要。
- ▶ カーボンクレジットなどによる山林の経済的価値を考える方が良いかもしれない。
- ▶ レクリエーション林としての可能性があると感じる。
- ▶ 町田市は住宅街から生きやすい「触れられる森」が多い。
- ▶ 資源を売るというよりも、木をもっと大きく育てよう・森を元気にしようという考え方で取り組む方が良いかもしれない。
- ▶ かつてこの場所には「暮らし」があったのだから、それを踏まえて「町田らしさ」が何かを考える必要があるのでは。

今後の方向性について



- (1) 「まちだの木」活用の庁内意識定着と木材循環の実現
- (2) 産官学連携の促進と「ゼロカーボンシティまちだ」実現への寄与